

2021年度 事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

I	2021年度事業報告 事業の体系図	1
II	2021年度事業報告一覧	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
----	-------	------	----	------	------

公1 絵本美術館の設置運営

ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ちひろ美術館・東京は2021年4月25日～5月24日に臨時休館し、両館ともに一部事業を中止した。

■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等

【いわさきちひろ展】	ちひろ・子どもは未来	ちひろは未来を生きる子どもたちに大きな可能性を感じ、絵を通して子どもがいる平和な日常の尊さを、私たちにうたえかけている。ちひろの絵とことばを通して、時代が変わっても変わらない大切なものや豊かさについて見つめ直した。	3,045名	3月16日～6月13日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの花鳥風月	日本では古来より「花鳥風月」を重要なテーマとしてきたが、みずみずしい感性で自然をとらえたちひろの絵のなかにも、日本的な美意識は脈々と受け継がれている。本展では、四季のなかで遊ぶ子どもを描いた代表作や絵本『あめのひのおるすばん』を展示し、自然をいつくむ感性や構図にみられる表現など、日本の伝統的な美術との接点を探った。	6,325名	6月19日～9月26日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの歩み-童画から絵本へ-	ちひろが活躍した1940年代後半から1970年代は、子どもの本の画家たちの目指す絵が、童画から絵本のための絵へと大きく転換した時期にあたる。紙芝居や絵雑誌、童話集などを描いた「童画家」時代の作品から、多くの絵本を手がけるようになった「絵本画家」としての作品まで、ちひろの画業をたどった。	6,678名	10月2日～2022年1月16日	ちひろ美術館・東京
	ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展	特設サイト、チラシ、SNS等で、「好きなこの1点」をメッセージとともに募集する参加型の展覧会を東京・安曇野で同時開催し、人々がちひろの絵に寄せるメッセージから、その絵の魅力を改めてとらえなおした。なお本展は、高精彩の複製画「ピエゾグラフ」で展覧会を構成した。	(6,678名)	10月2日～2022年1月16日	ちひろ美術館・東京
【企画展示】	<企画展> 没後1年 田畑精一『おいしいのぼうけん』展	『おいしいのぼうけん』は、それまでにない、作家と画家と編集者が三位一体で絵本づくりに取り組んだ意欲作で、1974年の刊行以来230万部を超えるミリオンセラーになっている。本展では、2020年に89歳で亡くなった田畑精一の画業を偲び、『おいしいのぼうけん』の絵本づくりとその魅力とともに、自伝的な絵本である『さくら』(日・中・韓平和絵本)を展示し、その人生と思いを紹介した。	(3,045名)	3月16日～4月24日 5月25～6月13日	ちひろ美術館・東京
	<企画展> 生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら	若いころからほぼ独学で日本画の修練を積んできた赤羽末吉。日本の昔話や古典文学を題材に選び、それぞれの絵本にふさわしい絵画表現を求めて日本の伝統的な美術を研究し、一作ごとにバリエーションに富んだ画風を展開した。赤羽末吉の絵画表現に着目し、子どもたちに開かれた日本美術へのとびらともいえる絵本を紹介した。	(6,325名)	6月19日～9月26日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「田畑精一展」関連 酒井京子講演会「田畑精一さんの絵本づくり」(オンライン)	『おいしいのぼうけん』を編集した酒井京子が、古田足日、田畑精一との三位一体での絵本づくりや、田畑作品の魅力について語った。(6月4日よりオンデマンド配信)	88名	4月25日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「赤羽末吉展」関連 赤羽茂乃講演会「赤羽末吉の旅と絵本」	赤羽末吉の研究者であり、三男の妻でもある赤羽茂乃が、日本の風土を描こうと各地を旅した足跡や、赤羽末吉の絵本の魅力について語った(練馬区立石神井図書館・貫井図書館・南田中図書館と共催)。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業	61名(同時上映会場含む)	6月27日	石神井図書館(貫井図書館・南田中図書館で同時上映)
	「赤羽末吉展」関連 赤羽研三×茂乃夫婦対談「父・赤羽末吉を語る」(オンライン)	赤羽末吉の三男である赤羽研三と、その妻で、赤羽末吉研究者である赤羽茂乃が、家族ならではのエピソードも交えながら、父・赤羽末吉の人物像や作品やについて、初めて夫婦で語った。(10月8日よりオンデマンド配信)	89名	8月22日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「赤羽末吉展」関連 斎藤惇夫×赤羽茂乃対談「赤羽末吉よもやま話」(オンライン)	児童文学作家で福音館書店の元編集者でもある斎藤惇夫と、赤羽末吉の三男の妻である赤羽茂乃が、編集者と家族の視点から、赤羽の絵本制作の背景や絵本の魅力について語った。(10月8日よりオンデマンド配信)	70名	8月23日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	中止			ちひろ美術館・東京
	夏休み子どもギャラリートーク	中止			ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	展示の見どころを、作品を見ながら学芸員が解説した。		12月4日、12月15日、 2022年1月2日、3月19日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろ・子どもとあそび	あそびは、子どもにとって心身の発達に大きな役割を持ち、私たちの生活や人生も豊かにするものである。本展では、ちひろが1950年代から描き始めた絵雑誌「あそび」(静岡福祉事業協会)のための作品や、近年新たに発見されたかるたのための作品(展示は印刷物)、童謡のための作品など、ちひろの描いた子どもと遊びを7つの章に分けて紹介した。	12,194名	3月1日～5月30日	安曇野ちひろ美術館
	トットちゃん広場5周年 『窓ぎわのトットちゃん』展	1981年に発売されて以来、ベストセラーとなり、今も世界中で読み継がれている『窓ぎわのトットちゃん』。同書が刊行されてから40周年、また、安曇野ちひろ公園「トットちゃん広場」がオープンしてから5周年に当たる2021年、子どもたちがのびのびと健やかに過ごせる未来を願い、あらためて本書の魅力を紹介した。	19,372名	6月5日～9月5日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【いわさきちひろ展】	ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展	特設サイト、チラシ、SNS等で、「好きなこの1点」をメッセージとともに募集する参加型の展覧会を東京・安曇野で同時開催し、人々がちひろの絵に寄せるメッセージから、その絵の魅力を改めてとらえなおした。なお本展は、高精彩の複製画「ピエゾグラフ」で展覧会を構成した。*文化庁令和2年度Arts for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業	20,456名	9月11日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ゆかりの品々や年譜、初版本等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや写真画像により、ちひろの絵と人生を伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室「トットちゃんの部屋」	『窓ぎわのトットちゃん』に登場する電車の教室の一部再現や、ちひろの絵で楽しむトットちゃんの物語、トモエ学園の紹介など、トットちゃんの世界を子どもたちの視線で楽しむことのできる展示を行った。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクションに見る 雪・月・風・花	地球上には、その土地ならではの自然があり、文化が育まれている。コレクションのなかから世界各国の絵本画家たちが描いた、多様な表現による雪、月、風、花の作品を紹介した。	(12,194名)	3月1日～5月30日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 子どもの時間	子どもの時間はさまざまなあそびや未知の冒険などであふれており、そこには国境はない。コレクションのなかから世界の画家たちの絵本に描かれた、「子どもの時間」を紹介した。	(19,372名)	6月5日～9月5日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション エリック・カールさんを偲んで	2021年5月に亡くなったエリック・カールさんを偲んで、ちひろ美術館との交流や所蔵するコレクション作品、ゲストブック等ゆかりのものを展示した。	(20,456名)	9月11日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 絵本で世界を旅しよう!	コロナ禍で移動が制限される今、世界のさまざまな場所の文化や生活に想いを巡らせ、旅するように世界各国の絵本画家の作品を展示した。	(20,456名)	9月11日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	「死者の書」や時禱書、絵巻物から20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて、紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【企画展示】	<企画展> 生誕111年 赤羽末吉展 絵本への一本道	今も読み継がれる数多くの絵本を発表し、日本で最初に国際アンデルセン賞作家賞を受賞した赤羽末吉。本展では旧満州(中国東北部)で日本画家として活躍した時代にまでさかのぼって赤羽の人生を紹介するとともに、『スーホの白い馬』や『つるによろぼう』などの絵本制作の背景を数多くの資料を通して紹介した。	(12,194名)	3月1日～5月30日	安曇野ちひろ美術館
	<企画展> 現代の町絵師 笑い反骨の画家 田島征彦展	田島征彦の絵本処女作であり、プラティスラヴァ世界絵本原画展(通称BIB)で金牌を受賞した『祇園祭』に焦点をあて、原画全点とともに資料や型絵染の型紙、その後に発表した大きな布に染め抜かれた祇園祭をテーマにした作品等を展示するほか、『じごくのそうべえ』なども展示し、田島が表現しつづけている人々のユーモアと反骨の精神のあらわれた作品を紹介した。	(19,372名)	6月5日～9月5日	安曇野ちひろ美術館
	<企画展> 没後1年 田畑精一『おいしいのぼうけん』展	『おいしいのぼうけん』の絵本づくりを中心に、初期の人形劇や紙芝居の仕事、『さくら』『ゆうちゃんのゆうは』などの原画や資料を展示なども紹介し、東京館での「田畑精一『おいしいのぼうけん』展」をより充実させた展覧会とした。*文化庁令和2年度Arts for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業	(20,456名)	9月11日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	「赤羽末吉展」関連 赤羽茂乃講演会「赤羽末吉の人生と絵本—大陸と雪国」	赤羽末吉の3男の妻で、『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』の著者である赤羽茂乃が、家族ならではのエピソードも交えながら、赤羽末吉の絵本と仕事、生涯を語った。(6月7日よりオンデマンド配信)	52名	4月11日	安曇野ちひろ美術館
	「ちひろ・子どもとあそび」関連 担当学芸員と松本猛によるトーク	「ちひろ・子どもとあそび展」に関連し、担当学芸員と、ちひろのひとり息子である松本猛(ちひろ美術館常任顧問)がスライドを交えながら作品や、その背景などについて話しあった。	13名	5月15日	安曇野ちひろ美術館
	「田島征彦展」関連 アーティストトークと読み語り	「田島征彦展」に関連し、作家の田島征彦が、展示されている作品について語り、人気の自作絵本の「読み語り」をした。	計150名	6月5日～6月8日	安曇野ちひろ美術館
	展示担当者、普及担当者によるスライドトーク	「田畑精一展」に関連し、子どもの心に届く作品をつくりたいと願った田畑精一の絵本づくりについて、展示担当者が解説するスライドトークを実施した。(11月15日よりオンデマンド配信)	28名	11月3日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	中止			安曇野ちひろ美術館
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	中止			安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
----	-------	------	----	------	------

■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等

【展覧会】	いわさきちひろ展	いわさきちひろの芸術を広く紹介するべく、初期の油彩画やドローイング、スケッチや素描、雑誌や単行本に掲載された挿し絵、絵本やカレンダーの原画など多岐にわたる作品を多数展示した。また、その作品の魅力の源となった、にじみや余白の効果を巧みに操ったちひろの水彩技法にも注目して紹介した。	8,838名	7月24日～8月29日 ※緊急事態宣言対象地域に指定され8月18日から29日まで臨時休館。	茨城県近代美術館(茨城県水戸市)
	ピエゾグラフィ作品によるいわさきちひろ展	ピエゾグラフィによるいわさきちひろ展を、開催希望自治体、団体、施設と協力して行った。	計4,021名	①3月19日～6月7日 ②6月18日～8月30日 ③9月10日～11月23日 ④12月3日～2022年3月7日	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市)
	ちひろ美術館コレクション ピエゾグラフィ展 いわさきちひろと日本の絵本	ちひろ美術館コレクションのなかから、いわさきちひろをはじめ、茂田井武、赤羽末吉、長新太、荒井良二、出久根育等、戦後から今日までの日本の絵本画家たちの作品をピエゾグラフィで展示した。また、大正期から昭和初期に活躍した岡本帰一、清水良雄等のピエゾグラフィ作品や、茨城ゆかりの童謡詩人 野口雨情・西条八十の仕事を当時の絵雑誌などの資料で紹介した。	2,594名	2022年1月8日～3月6日 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため1月19日～2月20日は臨時休館	しもだて美術館(茨城県筑西市)
	生誕111年 赤羽末吉展 スーホの草原にかけの虹	絵本『スーホの白い馬』を中心に、赤羽末吉の中国やモンゴルを舞台とした絵本をピエゾグラフィや多数の資料で紹介した。	1,670名	5月29日～6月30日	教文館ウェンライトホール(東京都中央区)
	茂田井武展—パリ青春日記『ton・paris』を中心に—	茂田井武『セロひきのゴーシュ』ピエゾグラフィ6点を展覧した。	1,808名	2022年1月8日～3月27日	大川美術館(群馬県桐生市)
	絵本原画ニヤ—展 猫が歩く絵本の世界	瀬川康男『ふたり』原画5点を展覧した。	9,003名	2022年1月29日～3月6日	富山県美術館(富山県富山市)
【ギャラリートーク等】	講演会「いわさきちひろの絵と人生—画家として、妻として、母として」	いわさきちひろの絵と人生について講演した(講師:竹迫祐子)。	80名	8月9日	茨城県近代美術館(茨城県水戸市)
	ちひろの水彩技法体験ワークショップ「オーナメントをつくろう」	いわさきちひろの水彩技法を体験し、オーナメントを制作するワークショップを開催した。	40名	7月25日	茨城県近代美術館(茨城県水戸市)

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	初山滋、司修の作品を購入したほか、瀬川康男、赤羽末吉などの寄贈を受け、合計62点を新規に収集した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	歴史展示関連資料6点を新規に収集した。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	赤羽末吉の遺族より、赤羽の絵本関連の蔵書約1500冊の寄贈を受けた他、優れた芸術性を持つ、魅力的な絵本の収集を進めた。		通年	両館
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心に収集作品の保存管理を行い、画像データベース等での作品整理を進めた。		通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	いわさきちひろ(ピエゾグラフィ 10点)・世界の絵本画家(ピエゾグラフィ 43点・追加出力 2点・スキャニング 1点)のデジタル・アーカイブスを行った。		通年	両館
	作品・資料の修復	いわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品の作品、資料等の修復作業を、適宜行った。		随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	両館で開催する展示のため、赤羽末吉、田島征彦、田畑精一等の作品について展覧会とあわせて調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進めた。		通年	両館
	作品・資料等のアーカイブス	新しいDBシステムに移行した作品(原画とピエゾグラフィ)、図書、遺品など資料のさらなるデータ整備を行ったほか、いわさきちひろの自筆原稿や手帳類130点、1977年の開館以来刊行した図録やパンフレット約80冊、1977～2007年の美術館だより30年分などのデジタル化を完了した。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	次年度の展覧会に向け、特に日本の歴史に関する資料の整理、調査・研究を進めた。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	赤羽末吉、田島征彦、田畑精一の絵本や人生のほか、新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について、外部の研究者とも連携しながら調査・研究を進めた。		通年	両館
	研究成果の公開 公式サイトでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、公式サイトにアップロードし、国内外にむけて発信した。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(展示会期ごと)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、展覧会にあわせて発行する「美術館だより」や公式サイトを通じて、公開した。		通年	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
----	-------	------	----	------	------

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	ワークショップ ちひろの水彩技法体験	中止			ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会をオンラインで開催した(講師:服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業	62名	6月5日、9月4日、10月30日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「田島征彦展」関連 みんなでじごくゆきじゃ!じごくのじゆうにんになろう ワークショップ	田島の代表作で展示作品でもある『じごくのそうべえ』の読み語りの後、参加者たちは自分の好きな登場人物のお面を作成し、田島はそのための地獄の背景画を描いた(松川村図書館と共催)。	12名	8月7日	松川村 すずの音ホール
	あかちゃんのための鑑賞会	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会をオンラインで開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業	17名	12月12日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	子どものための鑑賞会	3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、幼児～児童のための鑑賞会をオンラインで開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業	19名	12月12日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「—今日から実践できる— 子どもに気持ちが伝わる話し方」	中止			ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館 東京・安曇野をつなぐオンライン鑑賞会	ちひろ美術館・東京と安曇野ちひろ美術館の展示室をオンラインでつなぎ、開催中の「ピエゾグラフによるわたしの好きなちひろ展」のギャラリートークを行った。	51名	10月16日	両館(オンライン)
	ちひろかるたであそぼう	「ちひろ・子どもとあそび」展に関連し、ちひろの描いた「どうわかるた」を用いて、かるたとりやそれ以外のいろいろな遊び方を楽しむ機会とした。	3名	4月18日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション画家によるオンラインアーティストトーク	「ちひろ美術館コレクション 絵本で世界を旅しよう」に関連し、オンラインアーティストトーク「～絵本画家ポロルマー・パーサンスレンさんと旅するモンゴル～」を開催した。絵本の創作秘話や母国モンゴルの文化や人々の暮らしについて話した。	21名	10月24日	安曇野ちひろ美術館(オンライン)
	あかちゃんと保護者のための鑑賞会	「ベビーカーでお出かけしよう!」と題して、乳幼児とその保護者を対象に、子どもといっしょに美術館を楽しめる、ファーストミュージアムデーを、長野県の「いい育児の日」の11月19日に開催した。、展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読みかせ、ふれあい遊びを行った。	10名	11月19日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション貴重本紹介	中止			両館
	ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ	安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催した。		随時	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館
	ちひろの水彩技法「にじみ」のワークショップ	「トットちゃん広場5周年・みんなの夢プロジェクト」の一環として、ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を描くワークショップを安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場にて開催した。	265名	4月10日、4月11日、4月17日、4月18日、4月24日、4月25日	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館
	おうちで楽しむみんなの夢プロジェクト ちひろの水彩技法「にじみ」のワークショップ	「トットちゃん広場5周年・みんなの夢プロジェクト」の一環として、ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を、説明動画や説明書を見ながら、ご自宅や学校などで制作し、完成したにじみのオーナメントにそれぞれの夢を書いて、当館に届けてもらう活動を行った。(説明動画は7月11日よりオンデマンド配信を行った。)	373名	6月5日～9月5日	安曇野ちひろ美術館
ちひろ忌	ちひろが亡くなった8月8日にあわせてギャラリートーク等を行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どものしあわせと平和を願ったちひろの思いを、来館者ともに考える機会とした。	75名 648名	8月8日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館	
学校との提携活動	地元中学校との提携活動—中学生ボランティア	松川中学校と連携し、「トットちゃん広場5周年・みんなの夢プロジェクト」を実施。全校生徒240名がちひろの水彩技法の「にじみ」を体験しながら、3000個の「にじみ」のオーナメントを制作した。オーナメントには、中学生と来館者がそれぞれの夢を寄せ書きし、6月5日～9月5日の期間中、多目的ギャラリーに展示した。	5,000名	6月5日～9月5日	安曇野ちひろ美術館
	出前授業、出前講座	ちひろの画業や絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業を学校等に出向いて実施した。	15名	4月24日	松川村図書館工作教室(北安曇郡松川村)
			391名	4月28日、5月11日、5月14日、5月21日、6月10日	松川小学校(北安曇郡松川村)
			46名	5月9日	木曾福島公民館こどもいきいきクラブ(木曾郡木曾町)
			206名	10月18日	白馬中学校(北安曇郡白馬村)
学校団体への各種教育プログラム	授業で来館した学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計1回 77名	12月15日	ちひろ美術館・東京	

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
学校との提携活動	学校団体への各種教育プログラム	授業で来館した学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計10回 364名	6月29日、7月2日、7月8日、7月15日、7月12日、7月19日、7月27日、11月1日、11月8日、11月30日	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	長野県内の希望校を対象に、複製画等の貸し出しを行い、鑑賞教育の機会とした。	1校	9月30日～10月8日	南木曾中学校(木曾郡南木曾町)
			1校	10月18日～10月19日	白馬中学校(北安曇郡白馬村)
	大学での講義	静岡大学教育学部開講科目「生涯学習概論Ⅱ」における「博物館の機能と役割」の単元で、安曇野ちひろ美術館の活動について、オンラインでの講義を行った。	107名	12月16日	静岡大学(オンライン)
	教員向け内見会・内見週間の開催	長野県内の教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行った。	8名	3月19日～3月31日・4月8日	安曇野ちひろ美術館
職場体験実習の受入	中止			両館	

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。		通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション画家・企画展画家・その他の世界の絵本画家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、公式サイト等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしの中で身近に絵本を楽しめるよう支援した。		通年	両館
読み聞かせ会	絵本の時間(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催した。また同様に、学校からの団体鑑賞に際して、読み聞かせを行った。	計7回 90名	毎月第2、4土曜日(ただし、臨時休館および感染拡大防止のため。4月～10月は中止)	ちひろ美術館・東京
			計18回 215名	毎月第2、4土曜日を中心に行なった。	安曇野ちひろ美術館
	原語のおはなしの会(絵本の読み聞かせ)	中止			安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	希望する施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体に貸し出した。	1,427名	7月30日～9月15日	箕面市郷土資料館(大阪府箕面市)
			1,166名	7月31日～8月1日	鈴鹿市役所人権政策課(三重県鈴鹿市)
病院との提携活動	病院院内展示・ワークショップの実施	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行い、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内医療型短期入所施設「もみじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

オ 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ	国内外に向けた紹介動画の作成・発信	当館の施設、展示内容などを多言語で案内する映像を作成し、館内で上映するとともに、オンデマンド配信を行った。		随時	両館
	多言語によるオンラインイベントの配信・参加	インドネシアのJakarta Content Week (Jaktent)が主催するオンラインイベントに参加し、「美術館と子ども」をテーマとしたセッションで、ちひろ美術館の活動を紹介するとともに、ディスカッションに参加した。(11月11日～14日オンデマンド配信)		10月26日	両館(オンライン)
海外からの研修受入と交流	海外の絵本関係者の研修・交流	海外の絵本画家や編集者など絵本関係者を対象に、求めに応じて絵本に関する研修を受け入れる。あわせて地元の子どもたちとの交際交流を行い、相互理解、絵本文化の普及・発展を促進した。(含むオンライン開催)		随時	両館
	アジアや世界の絵本関係者の視察・調査等の受入	世界初の絵本美術館として、アジアや世界の絵本の図書館、美術館関係者に、当館の展示や学芸的な経験、運営や理念等を紹介、共有すべく、視察の受入れを行った。(含むオンライン開催)		随時	両館
	館内情報の多言語化	さまざまな国からの来館者に向けて、館や展示を紹介するため、英語デジタルガイドに新たに10コンテンツを追加制作した。また、館内で上映する映像に英語字幕を追加した。*文化庁令和2年度博物館等の文化施設インバウンド強化事業		随時	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
海外の関係機関とのネットワーク	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会、AFCC)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY (International Board on Books for Young People)やアジア子どものコンテンツフェスティバル(AFCC)、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、絵本文化の発展のための相互協力に努めた。BIB (International Biennale Bratislava)では、職員がオンラインで国際審査員を務めた(10月15日～2022年1月9日)。		随時	両館
	絵本美術館ネットワーク設立のための情報収集	国を超えた絵本美術館ネットワーク作りのために、調査を行い、情報交換を行った。		随時	両館

カ 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かして研究や活動を支援した。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、配布するとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して鑑賞を助けた。(含むオンライン開催)		随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に、求めに応じて、絵本の紹介や、読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行う等、支援をした。(含むオンライン開催)		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
		練馬区立美術館、練馬区立石神井図書館、貫井図書館、南田中図書館の4館と連携し、主に地域の小学生・中学生を対象に、美術館と図書館を結ぶスタンプラリーを実施した。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業		8月1日～9月5日	東京館
		練馬区立美術館、練馬区立石神井図書館、貫井図書館、南田中図書館と連携し、アートへの入口となる書籍を紹介するブックリストを、大人向け、子ども向けの2種作成し、館内での配布及び区内の小学校、中学校にも配布し、読書支援の取り組みとした。*文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業		2022年1月～3月	東京館
展覧会鑑賞のバリアフリー化	日本語を母語としない方や、視覚・聴覚障害をお持ちの方を対象に、スマートフォンからの音声や文字情報による解説を多言語で提供し、利用者のニーズに応えるデジタルガイドに、新たに10コンテンツを追加制作した。		随時	両館	
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とその保護者を対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスを行った。	計56名	4月15日、6月17日、8月19日、10月14日、2022年2月9日、2月17日	安曇野ちひろ美術館・松川村保健センター

その他					
被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。	東京館 1名 安曇野館 3名	通年	両館
		館内の来館者に対し、豪雨災害等日本各地での被災地支援の義援金を呼びかけた。		通年	安曇野ちひろ美術館
無料入館日	高校生以下無料	子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降行っている高校生以下無料入館の対応を、引き続き行った。	東京館2,735名 安曇野館8,725名 計11,460名	通年	両館
	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。	65歳以上の方対象 東京館 32名 安曇野館 58名	9月20日(敬老の日)	両館
			計937名	長野県民:11月27日、 2022年3月13日	安曇野ちひろ美術館
支援会員制度等	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団およびちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数563名(新規108名・継続455名)	通年	両館
収1					
その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。		通年	両館

■2021年度事業報告 入館者数一覧

1.絵本美術館の設置運営

2021年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京 17,068名、安曇野ちひろ美術館 52,384名、両館合計で69,452名となった。

■ちひろ美術館・東京

2021年4月～2022年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館 日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者 数	1日平均 入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者 その他無 料	小計		
4	21	767	767	20	51	95	8	91	265	1,032	49
5	6	170	170	1	15	22	0	14	52	222	37
6	22	1,246	1,246	20	51	145	14	203	433	1,679	76
7	27	1,035	1,035	24	68	151	9	160	412	1,447	54
8	26	1,199	1,199	68	153	188	6	154	569	1,768	68
9	23	1,701	1,701	22	103	155	12	381	673	2,374	103
10	26	1,285	1,285	61	54	115	13	199	442	1,727	66
11	25	1,517	1,517	53	86	184	12	285	620	2,137	85
12	23	1,064	1,064	25	101	105	10	310	551	1,615	70
1	13	862	862	17	58	106	10	146	337	1,199	92
3	17	1,262	1,262	77	89	252	10	178	606	1,868	110
合計	229	12,108	12,108	388	829	1,518	104	2,121	4,960	17,068	75
構成比		70.9%	70.9%	2.3%	4.9%	8.9%	0.6%	12.4%	29.1%	100.0%	
前年合計		7,384	7,384	151	435	921	75	1,084	2,666	10,050	38
前年比		164.0%	164.0%	257.0%	190.6%	164.8%	138.7%	195.7%	186.0%	169.8%	195.8%

* 2021年度の入館者総数は17,068名(75名/日)。2020年度比7,018名増(前年比169.8%)。

目標数(25,000人)比7,932名マイナス、達成率68.3%。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年4/25～5/24は臨時休館した。

* 臨時休館に伴い、2021年度の開館日数は229日。(通常開館の2019年度は264日)

* 入館者割合は、大人：中高生：小学生：幼児が、84：2：5：9(2020年度は85：2：4：9)。

* 年間パスポート販売数は90枚(270,000円)。利用者数(リピーターを含む)は379名。

(2020年度の年間パスポート販売数は53枚、利用者数は255名)

* 「ぐるっとパス」入館者数は1,439名(2020年度1,013名、前年比142%)。

* 外国人利用者は、年間で32名(前年31名、前年比103%)。

■安曇野ちひろ美術館

2021年4月～2022年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館 日数	有料入館者数		無料入館者数							全入館者 数	1日平均 入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他無 料	松川村 招待者	小計		
4	26	2,493	2,493	276	153	184	0	302	69	984	3,477	134
5	26	3,633	3,633	328	283	311	5	431	97	1,455	5,088	196
6	22	1,837	1,837	48	119	129	0	271	116	683	2,520	115
7	27	5,030	5,030	360	582	365	2	425	105	1,839	6,869	254
8	27	6,768	6,768	535	815	577	1	500	116	2,544	9,312	345
9	21	3,493	3,493	57	147	281	5	428	73	991	4,484	214
10	27	6,143	6,143	519	582	338	9	831	99	2,378	8,521	316
11	26	5,547	5,547	233	459	365	32	1,356	130	2,575	8,122	312
12			0							0	0	0
3	26	2,545	2,545	174	268	217	3	608	176	1,446	3,991	154
合計	228	37,489	37,489	2,530	3,408	2,767	57	5,152	981	14,895	52,384	230
構成比		71.6%	71.6%	4.8%	6.5%	5.3%	0.1%	9.8%	1.9%	28.4%	100.0%	
前年合計		32,226	32,226	1,168	1,940	2,029	33	4,405	521	10,096	42,322	270
前年比		116.3%	116.3%	216.6%	175.7%	136.4%	172.7%	117.0%	188.3%	147.5%	123.8%	85.2%

* 2021年度の入館者総数は52,384名(230名/日)。2020年度比10,062名増(前年比123.8%)、

目標数(70,000名)比17,616名マイナス、達成率74.8%。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き毎週水曜日を休館日とし、

12/1から冬期休館とした。

* 絵本カフェは、2021年3月より営業を再開した。

* 2021年度の開館日数は228日。2020年度は173日(前年比131.8%)。

* 入館者割合は、大人：中高生：小学生：幼児が83：5：7：5(2020年度は88：3：4：5)。

* 年間パスポート販売数は42枚(126,000円)、利用者数(リピーターを含む)は182名。

* 団体入館者数は、4,074名(2020年度は2,890名・前年比141%)。

入館者全体に占める団体割合は7.8%(2020年度は6.8%)。

内、台湾や韓国など海外からの来館者は0名。(2020年度も0名)。

■2021年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。